

空き店舗を活用して子育て支援施設を開設・運営
商店街の認知度アップ、店主の意識の変革に寄与

特定非営利活動法人 子育て支援のNPOまめっこ

機関名	特定非営利活動法人 子育て支援のNPOまめっこ		
所在地	愛知県名古屋市北区柳原4-2-3		
電話番号	052-915-5550		
地域概要	(1)管内人口 167千人	(2)管内商店街数 9商店街	
事業の対象となる 商店街の概要	(1)商店街数 1商店街	(2)会員数 92商店	
	(3)空き店舗率 10%	(4)大型店空き店舗数 0店	
商店街の種類	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成15年度 コミュニティ施設活用商店街活性化事業（保育サービス施設）

・子育て支援施設の設置・運営

総事業費

6,446千円

【事業実施内容】

1. 背景

名古屋市北区の柳原通商店街は、名古屋城の北東・テレビ塔の真北に位置する商店街である。

柳原地区は城下町として古くから栄え、戦後は公務員や通勤族の住宅街として発展してきたが、昭和40年代以降は近郊への大型店の進出や地下鉄の開通に伴って徐々に人通りが減り、空き店舗の存在も目立つようになっていた。

近年、柳原通商店街では毎年恒例のイベントを開催する以外に特に目立った活動はしてこなかったが、商店街振興組合理事長の交代をきっかけに商店街の活性化に向けた様々な試みに着手していた。そのような中で、子育て支援のNPOまめっこが子育て支援施設の開設に向けて物件を探しており、柳原通商店街内にある空き店舗に開設の打診があった。

当初こそ、理事長をはじめ商店街関係者には子育て支援施設の必要性を理解することができなかったものの、「子育て」を切り口とした新しい機能を持つことで商店街に新しい層の来街者を呼び込み、賑わいを創出できるのではないかという考えのもと、商店街と子育て支援施設「遊モア」との協調・協働体制がとられることとなった。



柳原通商店街の位置

(名古屋市商店街振興組合連合会 HP より)

2. 事業内容

商店街内の空き店舗を活用し、「広場事業」と「一時保育事業」の2事業を柱とする子育て支援施設「遊モア」を設置・運営した。

(1) 事業実施者

特定非営利活動法人子育て支援のNPOまめっこは、平成12年1月20日にNPOの認証を受けた団体である。平成4年より前身の「ワーカーズてべんとうず」を組織して名古屋市内を中心に親子教室の開設・運営を行うほか、子育てに関する講座の企画運営を行う団体として活動している。

(2) 施設概要

- ・施設名 0.1.2.3歳児とおとなの広場「遊モア」
- ・所在地 名古屋市北区柳原4-2-3 柳原通商店街内
- ・開設年月 平成15年7月5日
- ・面積 18坪 ワンフロア
- ・付帯設備 冷房・床暖房、電子レンジ、冷蔵庫、給湯器、ロッカーほか
- ・休館日 日曜日、月曜日、祝日、年末年始、特別休館日
- ・運営体制 有給スタッフ 2～3名（保育士資格保持者）
ボランティア 5～8名



まめっこ外観



まめっこ内部

(3) 事業内容

①広場事業

布・紙・木などの自然な素材を使ったおもちゃを用意して他の子どもと一緒に遊べるスペースであるとともに、地域情報や子育て情報の交換の場や他の親と交流する場として親子の居場所を提供した。

- ・利用対象 乳幼児（0～3歳児）とその保護者
- ・利用時間 月～金…10時～16時、土…10時～12時
- ・利用料金 登録料 年間2,000円
利用料 1日1人300円（回数券あり）

②一時保育事業

・利用対象	6ヶ月～5歳児	
・利用時間	月～金…9時～17時（2日前に要予約）	
・1時間の利用料金	1歳未満	1,200円
	1歳～2歳未満	1,100円
	2歳～3歳未満	1,000円
	3歳～4歳未満	900円
	4歳～未就学児	800円

(4) 商店街との連携

商店街主催の夏祭りやフリーマーケットに出店したほか、イベントの際の休憩所として施設を開放した。また、「ffの会」（商店街のおかみさんの会）の例会に参加したり、他の商店街の取り組みについて一緒に学習する機会を持つなどして連携を図った。



柳原通商店街

【 効 果 】

1. 商店街の認知度

愛知県で初めて国・県・市から補助を受けた施設として「遊モア」がテレビ、ラジオ、新聞などのマスコミで紹介されることで、それに付随する形で商店街自体も多くマスコミで紹介された。そのため、商店街の認知度が上がるとともに、「柳原通商店街は元気」というイメージを来街者に抱かせることができ、その期待に応えようと商店主の意識も変化しつつある。

2. 商店街の組織

「遊モア」ができたことで、顔の見える関係が安心や信頼につながるというもともと商店街が有していた良さを商店街の人々が再認識できるようになった。そのことがおかみさんたちが連携して、商店街で何か新しい取り組みを行うことができないかと動き出す原動力になっている。

3. 近隣個店への波及

来街者に親子連れの姿が多くなり、親子向けの弁当を開発する商店が現れるなど、商店主のやる気を引き出した。

【課題・反省点】

1. 事業費の確保

現在の利用状況のままでは補助金がなくなった後の事業継続が困難である。障がい児とその親の日常的な利用があるほか、シングルマザーの子育て相談や保育の場が求められるなど、地域療育センターの受け皿的役割を担いつつあるものの、それらの人達は利用料金を支払うことが難しい状況にある。最低の運営費を確保し、福祉を事業として採算に乗せていくのは非常に大変である。

2. 人的体制

保育スタッフの質を上げていくための研修が必要不可欠であるが、目に見えない投資となるため理解を得ることが難しい。

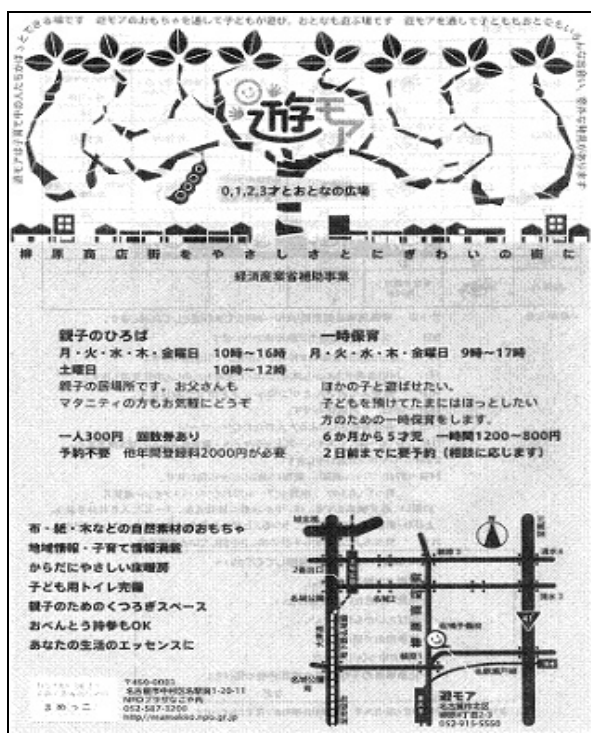
【事業の実施ポイント】

当事者性をもって事業に取り組むとともに、自分の思いや夢を商店街、行政及び関係者等、多くの方に語ることで支援者を増やしていくことが重要である。

【関連URL】

子育て支援のNPOまめっこ <http://mamekko.npo.gr.jp/>

柳原通商店街振興組合 http://www.kinsyachi.com/view_mall.cgi?m=v&d=03025



「遊モア」案内チラシ